



# 東アジア共同体評議会会報

The Council on East Asian Community Bulletin, Spring 2015 Vol.12 No.2

## 民間交流による日中関係の深化と拡大

昨年末ようやく首脳会談が実現したとはいえ、日中関係には依然として厳しいものがあるが、そうした中でなんとか「日中関係の深化と拡大」の可能性を探りたいとの問題意識から、当評議会は2013年9月以来「日中民間交流の強化」をテーマにする調査研究プロジェクトを推進してきた。さる2月24日には、清華大学、北京師範大学および北京第二外国語学院との共催で、東京の日中友好会館で双方から総勢62名の参加する国際シンポジウムを開催した。その概要はつぎのとおり。

### ＜青年交流の現状と課題＞

セッション1「青年交流の現状と課題」では、冒頭、高益民北京師範大学国際比較教育研究院副院長から「日中関係には容易に解決できない問題が存



会場で熱心に聞き入る参加者たち  
在しており、その解決には政治家の決断が必要である。しかし、関係悪化の阻止や最悪事態の被害軽減は両国間のクッションの厚さにかかっている。そのクッションとは、危機管理メカニズムであり、共通利益であり、また相互理解可能な国民の存在であるが、その中核にあるのが、留学生交流の成果である。現在、日本から中国に約17,000人（日本

から海外に留学する総人数の31%）が、また中国から日本に約81,000人（在日留学生総数の60%）が留学しているが、まだまだ不十分である」との指摘があった。

### ＜日中民間交流のあり方＞

セッション2「未来志向の日中民間交流のあり方」では、冒頭、江新興北京第二外国語学院教授から「1970年代から始まった政府主導の様々な交流事業は、ここ数年のあいだ諸般の事情から縮小、延期あるいは中止されている。そして、両国国民の相手国に対する認識は、近年ますますネガティブな方向に進んでいる。その原因には、相手の文化に対する両国国民の認識の欠如があり、それが中日両国の社会発展の段階が異なることにより増幅されている」との報告がなされた。

## 東アジア・フォーラム総会、開催さる

さる11月25-27日、ブルネイのバンドルスリブガワンにおいて、第12回「東アジア・フォーラム (EAF)」(写真)が開催された。EAFはASEAN+3首脳会議の要請を受けて2003年より毎年各国の産官学の代表者を一堂に集め、東アジアの地域協力における具体的な方策を議論してきたが、今回のEAFには、ASEAN+3諸国から54名が参加した。日本からは、石垣泰司当評議会議長代行の他、相星孝一ASEAN日本政府代表部大使、山本大介双日総研副



所長、井上広勝外務省アジア大洋州局事務官、菊池誉名当評議会事務局長の計5名が出席した。

当日は、ブルネイのヤン・ベルモット・ベン第2外務貿易大臣から「東アジアにおいては、まだまだ多くの課題が存在しているが、EAFは、これまで東アジアの地域協力における具体的な方策を議論することで成果をあげ、ASEAN+3プロセスとともに成長を遂げてきた。ASEANは、2015年に予定されている共同体創設を受けて、その後の歩みを始めなければならないが、その関連で今後のEAFは、『東アジア経済共同体』構築といった、より大胆なビジョンのために寄与すべきであろう」との問題提起があった。なお、2015年のEAF開催国については、韓国が立候補し、満場一致で承認された。

## 東アジア共同体と日本

2012年10月15日に当評議会の伊藤憲一会長が東京外国語大学国際関係研究所(渡邊啓貴所長)主催の連続リレー講座「アジア共同体を考える」において、トップバッターとして教壇にたったことは、本会報2013年1月1日号において既報のとおりであるが、この度、リレー講座の講義録全体が、芦書房より『世界からみたアジア共同体』(写真)として刊行された。全295頁、定価1,994円(税込)、全国書店で好評発売中。

伊藤会長の講義は、第1章「東アジア共同体構想と日本の立場：東アジア共同体は可能か、必要か」に収録されている。



## 石垣泰司氏、新議長に選任さる

さる1月21日に、当評議会の第11回運営準備会議(他団体の理事会に相当)および第17回運営本会議(他団体の総会に相当)が開催され、規約の一部変更および役員を選任が審議されたが、その際昨年10月28日以来空席となっていた議長職に石垣泰司副議長(日本国際フォーラム参与)が、また新任(増員)の副議長職に杉村美紀有識者議員(上智大学副学長)



石垣泰司議長

が、それぞれ満場一致で選任された。

石垣議長は、2000年に外務省を退官した後、2005年より日本国際フォーラム参与、また当評議会副議長として、重要な役割を果たしてきたが、とくに東アジア・フォーラム(EAF)や東アジア研究所連合(NEAT)などの諸会議においては、日本代表として積極的に発言してきた。

## 百家争鳴から

東アジア共同体評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上のe-論壇「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

### 共同体構築を目指すAPT首脳会議

東アジア共同体評議会事務局長 菊池 誉名

さる11月に、ミャンマーのネピドーで一連のASEAN関連首脳会議が開催された。日本のメディアの報道よりは断片的なものが多く、これら一連の首脳会議、特に「ASEAN+3 (APT)」首脳会議の本来の目標である東アジア共同体構築を目指す動きについては、ほとんど報道が行われていない。毎年APT首脳会議をフォローしてきた者の立場から、若干のコメントを行いたい。

今回の首脳会議では、2012年に提出された「東アジア・ビジョン・グループ2 (EAVG 2)」の報告書のフォローアップが行われたのが大きな成果であった。他方、課題として浮き彫りに

なったのは、中国による新たな地域秩序形成に向けた動きである。南シナ海問題について首脳会議は「法の支配」による解決を模索しているが、その解決の目途は未だ全くたっていない。

こうした現状の中で、日本はどのような対応をとるべきであろうか。一つには、「東アジア・サミット (EAS)」設立に向けて各国の対立が表面化した2004年に、日本が東アジア共同体のあるべき姿を明確にした「論点ペーパー」を打ち出し、それがもととなってこの地域の統合を推し進めたという経験にならない、再び日本より共同体のあるべき姿を打ち出すべきではないか。

(2014年12月12日付投稿)

### 最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- |                                     |                                      |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 2/26 「シンポジウム『日中間交流のあり方』に参加して」(池尾愛子) | 1/24 「訪日外国人旅行者数、1341万人に！その先へ」(鈴木馨祐)  |
| 2/22 「人質事件における安倍首相責任論について」(加藤朗)     | 12/22 「CIAバッシングとアメリカ民主党の末期的症状」(高畑昭男) |
| 1/27 「日本潰しねらう中国の人民元『国際通貨戦略』」(田村秀男)  | 12/19 「トルコを取り込むプーチンの地政学」(川上高司)       |

## CEAC活動日誌(12月-2月)

- 12月10日、2月10日 『メルマガ東アジア共同体評議会』発行
- 12月17日 日中研究交流支援事業「日中関係の深化と拡大に向けた民間交流のあり方」第1回国内会合(杉村美紀主査他7名)
- 12月22-23日 日中韓協力15周年記念 三国人材交流セミナー参加(石川薫有識者議員)(中国・長春)
- 1月10日 『CEAC E-Letter』発行
- 1月21日 第11回運営準備会議
- 1月21日 第17回運営本会議
- 1月21日 第67回政策本会議(石垣泰司議長他18名)
- 2月11-14日 日中研究交流支援事業 北京調査、国際ワークショップ(日本から杉村主査他5名)(北京)
- 2月23日 日中研究交流支援事業第2回国内会合(廣澤裕介立命館大学「キャンパスアジア・プログラム」プログラムマネージャー他6名)
- 2月23-24日 日中研究交流支援事業 国際シンポジウム(杉村主査他61名)

### ■新規参与の紹介 (12-2月)

山脇良雄(文部科学省国際統括官)

### ■新規役員を紹介します (12-2月)

[議長]

石垣泰司(日本国際フォーラム参与)

[副議長]

杉村美紀(上智大学学術交流担当副学長)



東アジア共同体評議会会報  
2015年春季号  
(第12巻 第2号 通巻第43号)

発行日 2015年4月1日  
発行人 伊藤 憲一  
編集人 菊池 誉名

発行所 東アジア共同体評議会  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp(代表)  
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.ceac.jp/>